



平成30年7月13日

各 位

会 社 名 ファーマライズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役執行役員社長 岩 崎 哲 雄
(東証第一部・コード番号 2796)
問 合 せ 先 専務取締役執行役員 秋 山 昌 之
(TEL. 03—3362—7130)

平成30年5月期通期連結業績予想値と決算値との差異及び
減損損失(特別損失)の計上に関するお知らせ

平成30年4月12日に公表しました平成30年5月期通期連結業績予想と本日公表の決算の実績値との間の差異及び平成30年5月期第4四半期連結期間(平成30年3月1日～5月31日)における減損損失(特別損失)の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成30年5月期通期連結業績予想値と実績値の差異(平成29年6月1日～平成30年5月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 54,600	百万円 1,015	百万円 890	百万円 205	円 銭 22.68
今回実績値(B)	54,562	1,185	1,099	△22	△2.51
増減額(B-A)	△37	170	209	△227	
増減率(%)	△0.1%	16.8%	23.5%	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年5月期)	52,949	442	324	7	0.85

2. 差異の理由及び減損損失の計上について

当社グループは、選ばれる「かかりつけ薬局・薬剤師」となるための施策を積極的に推進しております。当期の調剤薬局事業では、売上高は受入処方せん枚数が好調に推移したことを主因として当初の想定を上回ることができました。一方で、物販事業の中核をなす薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社におきましては、新規出店及び店舗改装を実施しつつ不採算店舗の閉店並びに本部関連費用の削減を前年度に増して取組んでまいりました。しかし、業績は改善しつつあるものの依然採算改善の途上にあります。以上から、売上高については概ね当初想定どおり、営業利益及び経常利益につきましては予算を上回ることとなりました。

一方、平成30年4月1日の調剤報酬及び薬価改定に伴う影響からの回復は従前よりも鈍化することが想定され、グループ全体はもとより、特に薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社の収益体質の改善及び早期の黒字化は喫緊の課題であると認識しております。このため平成30年5月期第4四半期連結期間におきまして、同社を中心とし当初想定額以上の固定資産の減損損失 460 百万円を計上することと致しました。

このため親会社株主に帰属する当期純利益は前回の業績予想数値を下回ることとなりました。

以 上